

全国大学生マーケティング・コンペティション優勝報告

第10期 全先 伸一
第11期 伊礼 大夏志
佐藤 優輝
長澤 由美子

◆全国大学生マーケティング・コンペティションとは…？

全国大学生マーケティング・コンペティションは、神戸市外国語大学が主催するビジネスコンテストです。このコンペの特徴としては、プレゼンテーションをすべて英語で行うことが挙げられます。第3回となる今年度は、協賛企業、株式会社アシックスの「女性用高機能ビジネスパンプス GIRO の販売促進戦略」が課題でした。今年度は、小野ゼミからは有志で集まった第10期生全先、第11期生伊礼・佐藤・長澤の4人がチームを結成し、優勝を目指して参加しました。そして、小野ゼミチームは見事優勝を果たすことが出来ました。

◆発表の概要

「GIRO」は、スポーツメーカーであるアシックス社によって販売されている女性用ビジネスシューズです。この商品の国内売上を1年間で20%増加させられる SNS (Social Network Service) を用いた販売促進戦略の策定が求められました。我々は、20~30代の働く女性をターゲットとし、「Wanna walk one station with GIRO ——GIRO といるとき、ちょっとヒトエキ——」という独自のキャッチフレーズを作り、GIRO を使った通勤ウォーキングを訴求する提案を行いました。また、東急電鉄のアプリ「のるレージ」とタイアップすることで SNS を活用するという提案をしました。

9月から準備をし始めたこの大会は、1次選考を



見事優勝して喜ぶマケコンメンバー

通過したチームが神戸で行われる本選考に進めるというものでした。1次選考および本選考ともに昨年より1ヶ月早く行われ、3年生は三田論、4年生は卒論を抱えながら本コンテストに参加しました。1次選考は、提案するビジネスプランの概要をPowerPointファイル10枚にまとめ上げるという課題でした。本選考は、全国から集められた強豪校が一同に介し、売上20%アップのためのビジネスプランの集大成を、多数の実務家の審査員と大勢の聴衆の前で発表する場でした。

この大会で第3回目となる全国大学生マーケティング・コンペティションに、小野ゼミは、3年連続で本選考に進むことができ、本選考においては、今年は、見事、優勝の榮譽に浴すことができました。昨年、準優勝に終わった悔しさをばねに、頑張りました。

◆発表後記（第10期生 全先 伸一）

タイトルで笑っちゃった自分にとって「マケコン」とは何か？それは、女性の方々に触れ合える絶好のチャンスです。全国大学生マーケティング大会（通称マケコン）は、その名の通り、全国から多くの大学生が集まるため、女性の方々と触れ合える場です。前年度の大会でチームの代表を務めた私は、その後、素敵な女の子と話す事が生きがいになるようになりました。当初は、論文チームに貢献しなさを過ぎて、放ゼミになりそうだったため、（小野ゼミ官僚軍団である本務チームからの圧力



発表前、優勝への意気込みを見せる全先

により…)マケコン代表を務めることで、小野ゼミに残留させてもらおうとしたことが、この大会へ参加するきっかけでした。ですが、確固たる業績を残すことができた今、胸を張って、「小野ゼミにしっかりと貢献した！」と自信を持つことができ、また、それと同時に、上記の生きがいを得ることもできました。

2011年から始まった全国大学生マーケティング大会（通称マケコン）は2013年で、第3回大会を迎えます。小野ゼミは、今年、初優勝し、マケコンの歴史に名を残しました。昨年は、準優勝に終わり、とても悔しい思いをしましたが、今年は、優勝することができ、自分とゼミの成長を肌で感じることもできました。

11期との3ヶ月間は、予想外にとっても楽しいものでした。昨年は、代表を務め、今年は総監督に就任し、チーム全体の指揮を執りました。総監督としてチーム全体を俯瞰視点で見ることができたことは、自分の人生における糧にもなりました。「優勝できたのは、総監督のおかげです！！」と、言われた時は、本当に嬉しかったです。

今後は、毎年小野ゼミが優勝するという流れができるのではないかと思います。また、そのような新潮流を作った自分自身をととても誇らしく思います。また、来年は、マケコン名誉監督（OB）に就任し、サポートしていきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します（笑）。

最後になりますが、ご指導頂いた小野先生、中村君、笹本さん、本当にありがとうございました。また、発表資料やプレゼンをより良いものにしようとしてご尽力頂いたゼミ生、大学院生の方々、本当にありがとうございました。

◆発表後記（第 11 期生 伊礼 大夏志）

勝利の美酒はやたらと旨かった！ 先日の神戸で行われた全国学生マーケティングコンテストにて、小野ゼミチームとして、第 11 期の私伊礼、佐藤優輝、長澤由美子、そして第 10 期の全先さんと出場し見事優勝できました！（ドヤァ）

電通、BBC News、ASICS の方々を前にして、ASICS のマーケティングプランを英語でプレゼンテーションするこの大会で、並み居る強豪を抑え小野ゼミで培った力を存分に発揮してきました！（ドヤァ）

ゼミでフィードバックをもらってはプランやパワポをゼロから作り直したり、僕と優輝くん徹夜してパワポを作ったのに 2 人ともこだわり過ぎて 10 枚しかできていなかったり、前日まで論文の中間発表に追われたり、台本を当日朝の神戸行きの電車の中で覚えたり、発表途



優勝後、トロフィーを担ぐ伊礼のドヤ顔

中にクリッカーが壊れながらも連携してどうにか乗り切ったりと、四苦八苦あったこともあって「優勝は、小野ゼミチームです！」と司会者が言ったときには、4 人とも奇声を上げて飛び上がって喜んじやいました（笑）。

大会後の懇親会で、審査員の方から多くのフィードバックをいただき「優勝したからといって、決して驕ってはいけないな」と思うと同時に「まだまだ成長の余地があるんだ」と嬉しくも思いました。

懇親会後は 4 人で近くの健康ランドに泊まり、優勝賞金を使って、少し贅沢な夜食をとり、ビールとワインで乾杯しました。食後は 4 人で温泉に行ったり、ゲームセンターで遊んだり、岩盤浴をしたりと今までの労を存分に癒し、大いに楽しみました。

敵じゃなくて良かったと思うほどのプレゼンテーションを見せてくれた全先さん、他のチームが真面目にプレゼンする中で大勢の前で滑り倒してしまった長澤さん、パワポの提案、プランのアイデア、英語添削までしてくれた優輝くん、本当に本当にありがとう！

1 人でも欠けていたら、このチームは優勝できなかったでしょう。非常にバランスが取れ、また、皆価値観が似ていたのので、この数ヶ月、指揮を執っていくうえでも非常にやりやすく、また楽しかったです。

素晴らしい運営をしてくださり、発表前も懇親会中もフレンドリーに接してくれたアカー先生、フィー

ドバックをしてくれた先輩方、そして何より、ご多忙の中、細かくプランや英語を見てくださった小野先生には、この場を借りてお礼を言いたいです。

来年入ってくる第12期生には、是非連覇を狙ってほしいものです！今回のチームをはじめ、第11期全員で、全力でサポートします！ それでは！

◆発表後記（第11期生 佐藤 優輝）

マケコン。カンマケチームに迷惑をかけながら挑んだこの挑戦。絶対に「負けコン」にするわけにはいかなかった。優勝以外、何も見えていなかった。

実は私、この大会、並ならぬ覚悟で望んでいたのです。というのも、1、2年生の頃からビジコンが好きで、サークルで有志を募って出場したりしていたのですが、最高は準優勝で、優勝経験がありませんでした。小野ゼミに入りたいと思った理由は沢山ありますが、その中の1つは、「ゼミでマーケティングをしっかりと勉強することで、学術的知見を盛り込んだ深いプランを提案し、それでビジコンに優勝したい！」だったのです。なんて思っていました。

そんな覚悟を持つ中、集まったメンバーは、私と伊礼くんと長澤さんとそれから全先さん。みんな違ってみんな良い、とても個性的なメンバーが揃った。持ち前のキュート&プリティーさで、本番でダダ滑り倒した私たちのアイドル、長澤さん。安心して。私だけは、大爆笑だった。持ち前の真っ先に動く行動力で、会議に集まらない全先さん。会議の度にお菓子があるのが嬉しかったです。最後に、持ち前の頭おかしさで、絶えずチームを引っ張ってくれたリーダー伊礼くん。君が本番で壇上から降りて、審査員に「I love you ♡」って言いに行ったとき、私は目を疑ったよ。時間制限オーバーしそうだったのに、何やってんだこのヤロウ。でも君とパワポ作ったガストオールは、小野ゼミでしたオールの中でも1番楽しかったかもしれないです、はい。ありがとう。またビジコン出ような。

でも、まさか本当に優勝できるとは思わなかった。これも先輩方のフィードバックをくださった先輩方や、私たちの拙いミジンコのような英文を添削してくださった小野晃典先生のおかげです。本当にありがとうございました。



神戸の宿舎にて、
セクシーに浴衣を着こなす佐藤優輝

◆発表後記（第11期生 長澤 由美子）

マケコンの活動を始めたのは、1次締め切りの約2週間前の夏合宿終了後である。皆、それぞれの三田論や役職などいくつも他の活動を抱えていた中での活動だった。間違いなくマケコンに割く時間は残っていない中、どうにか時間を作り出し、なんとか1次選考を突破した。本選までの間も、三田論の締切が間近となりただでさえバタバタ。資料提出の締め切りを忘れる、台本も固まり切らないなど色々問題を残したまま何とか当日を迎えた。ぎりぎりまで練習



全てを終え、最後に神戸牛を食す長澤

をして、私はセリフが飛ばないことを祈りながら本番に臨んだ。ビジコンの舞台上で寝ている状態からプレゼンを始めるという常識を逸脱したことをするのは、これが最初で最後だっただろう（笑）。そんな始まりで始まった私たちの発表は、練習通りとはいかず悔しさを残すものとなった。もちろん絶対優勝を目標としていただけにテンションはダダ落ち。会場から逃げ出したい気持ちを抑え、結果発表に臨んだ。しかし、私たちの予想とは裏腹に、結果は優勝。終わりよければすべてよしとはこのことだと思った。優勝できたのも全部、伊礼、優輝、全先さんのおかげだと思う。見事なキャッチフレーズを考え出した発想力の伊礼。スタイリッシュなデザインと細かいアニメーションで作ったパワポの優輝。アドリブとハイテンションで観客を引き付ける発表の全先さん。素晴らしいメンバーに恵まれての結果だと思う。感謝してもしきれない。楽しかったです。本当にありがとうございました。



懇親会にて、マケコンメンバーと超豪華審査員の方々